

講演会① 2025年6月7日(土)・再放送6月14日(土)
主催：(一般社団法人)障がい児成長支援協会
共催：児童デイサポート「らぐらす」上中条

『特別支援が必要な

通常の学級・通級の子どもの進路の話』

- ・注意したい！支援級との進路の違い
- ・配慮が必要な生徒を受け入れる高等学校
- ・中3の出口を決めて今の支援を考える

(一般社団法人)障がい児成長支援協会 代表理事・協会長
中部学院大学非常勤講師 山内 康彦

『天を望みて、地を歩む』

→18歳の出口を考えて今の療育を行う

なぜ、「今が大切」と今ばかり見るのか？
→毎年変わる担任、責任がもてない？
≪まず18歳以降の三つの生き方を考える≫

- 1 手帳を使って「障害者」として生きていく
- 2 手帳をもたずに「健常者」として生きていく
- 3 1と2の合わせ技、手帳と学歴をもつ生き方

それでは、中三以降どのような道に進むか

「特別支援学校高等部」進学か？

それとも「高等学校進学」か？

×現在中3卒業後社会に出る子は100人に一人？

1 特別支援学校高等部進学の場合

- 通常の支援学校高等部に進学
- 高等特別支援学校高等部進学 (学力必要)

2 高等学校進学の場合

- 通常の公立・私立の高等学校 (内申点必要)
- 特別な高等学校(支援学級から進学可能)
(例)通信制サポート高校や専修学校

今日のお話の内容

(子どもたちのためになるよい教育・療育を知ってもらいたい。)

- 1 支援学校～通常級で何が違うのか(1)
- 2 何が違うのか(2)支援体制
- 3 何が違うのか(3)進路

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

支援学校は、生活单元中心
学習よりも、「自立して生きていく力」を身につけていくことが最優先！！

☆小1では、ほとんど学習を行わず身辺自立最優先！！

☆小3から「ひらがな練習」ということもある。

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

支援学級(知的学級)は、生活单元+教科の授業
基本的に支援学校と同じ！
しかし、その子に合った学習も進めていく。
通常級の交流もその子に合わせてある。

☆「ひらがな」は小1から指導する。

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

支援学級（自閉・情緒学級）は、教科の授業＋自立活動（生単無し）基本的に学年の教科学習を行い、SSTなどの自立活動を行う。→その子によるが、通常との交流も多く、通常学級に戻るケースも多い。

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

通級指導教室は、「ことば」と「情緒」の2種類が多い
通常級に籍を置き、週に1～数時間抜き出しで個別の指導を受ける。
自校の場合と他校の場合がある

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

通常の学級は、教科の授業中心

原則、担任一人で、30人の子どもたちを担当。
合理的配慮を行わなくてはならないが、現実には難しい。

※通常級に8.8%の発達障がいの子ども！
※医師や専門家の意見書があるとよい。

今日のお話の内容

（子どもたちのためになるよい教育・療育を知ってもらいたい。）

- 1 支援学校～通常級で何が違うのか（1）
- 2 何が違うのか（2）支援体制
- 3 何が違うのか（3）進路・就労

支援学校→担任が2人

支援学級→担任が1人
＋支援員（県・市町村）

通常学級→担任が1人
＋支援員（県・市町村）

☆小3からは基本担任1人

どのような基準で分けるのか？

判定は、市町村教育委員会

就学指導委員会・教育支援委員会等の名前
（教育委員会担当職員＋校長会代表＋専門医＋支援学校教員＋発達支援センター＋教育長等）＋保護者の願い等書かれた書類

①身辺自立ができていますか。

②知的な遅れがあるか。

③情緒面の問題がないか。

※原則定例・・・臨時も有

変更する場合は、

まず校内の**支援委員会で決定？**

（校長＋教頭＋主幹教諭＋教務＋学年主任＋コーディネーター
＋養護教諭＋支援学級担任＋通級の先生）

校内委員会で変更必要がある決まると

①まず、保護者に連絡

そして、保護者の理解が得られると

②教育委員会に書類が行く。

③判定委員会が見学に来て決定する。

→※実質は校内委員会の通り進む

今日のお話の内容

（子どもたちのためになるよい教育・療育を知ってもらいたい。）

1 支援学校～通常級で何が違うのか（１）

2 何が違うのか（２）支援体制

3 何が違うのか（３）進路・就労

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

支援学校は、高等部まで支援学校

通常の学校（支援学級）への変更は、事例としてほとんど無い。

→よほどのことがないかぎり通常の学校が受け入れない。

→手帳を使って、障がい者枠でよりよい就職先をめざす。

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

支援学級（知的）は、最終的に支援学校高等部→就職が多い

※高校に進学するなら早期から取り組む必要有

《理由》

知的な遅れがあるため、高等学校の学習についていけず、卒業することができないと判断される。

高等学校は、留年がある。

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

支援学級（自閉・情緒）は、多くの子が障害者手帳がない。

★精神手帳では入学できないケースが多い！（※今から要確認）

すると特別支援学校高等部に入学できない？

となると、高等学校進学をめざさなくてはならない。（※特別支援学校高等部の希望者が多く定員が一杯なため、原則手帳が必要？）

支援学校、支援学級、通級、通常級の違い

通常の学級や通級は原則高等学校進学をめざさなくてはならない。

（通級は通常級にもどす努力）

《理由》

現在は、定時制、単位制や通信制など様々な高等学校ができています。

→将来をみすえた支援が必要！！

不登校や特別支援学級から進学できる
『様々な特別な高校の例』

- ①公立の定時制高校や単位制高校
☆新規：インクルーシブ校
- ②特別支援が必要な生徒を受け入れてくれる私立高校
- ③通信制高校（サポート高校）
- ④専修学校（通信制＋専門学校）

入学できることより「卒業できる」学校か？
『卒業後の進路は大丈夫か？』を考える

《進路選びのポイント》

- ①入学試験は何か（学力試験の有無・面接）
- ②進級・卒業の条件
（期末試験の有無・卒業単位数74～110）
- ③先生の専門性（どんな先生がいるのか）
- ④出席日数が一定量必要な学校なのか
- ⑤少人数・個別対応をしてくれる学校か？
- ⑥卒業後の進路や就労の面倒を見てくれるか
- ⑦卒業までにいくらお金が必要なのか？

ご清聴ありがとうございました



オススメ ほめる育て方や進路についてわかる本！

- ①特別支援教育って何？
- ②特別支援が必要な子どもの進路の話
- ③特別支援が必要な子どもの「就労・進学・進路」相談室
- ④特別支援が必要な子どもの高等学校進学の話

WAVE出版→書店・アマゾン等で購入可能！

